

3. 調整池・流域貯留浸透整備

概要

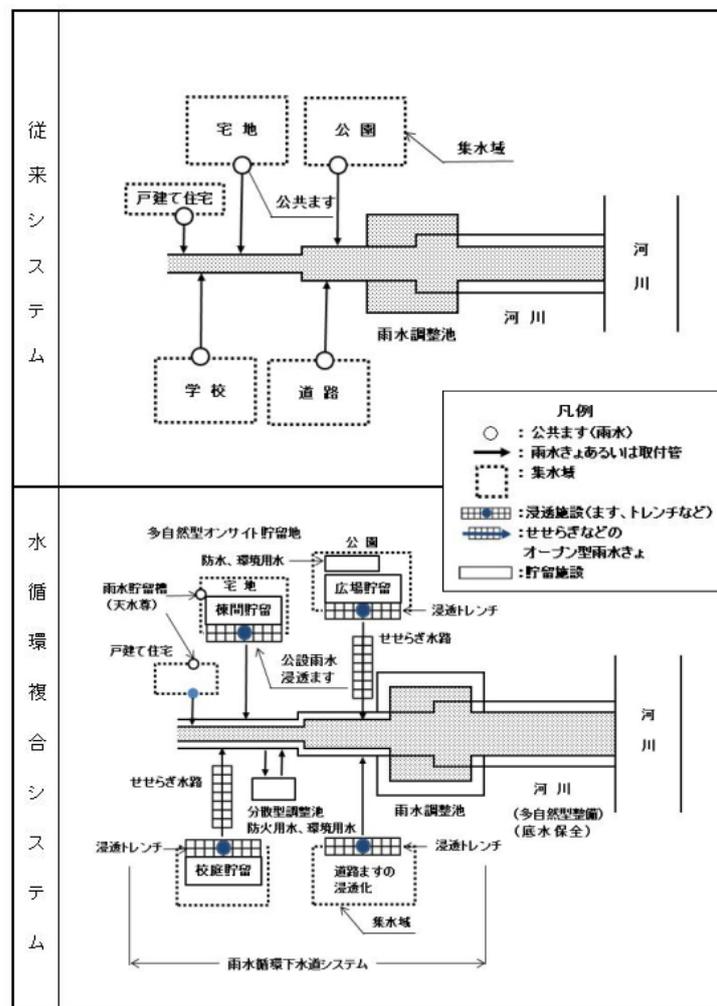
都市部では、用地取得が困難なことから、河川改修による洪水対策は困難となっております。都市化の急速な進展による雨水流出形態の変化や地下空間の利用拡大など都市構造が変貌する中で、内水氾濫による浸水に対する安全度は実質的に低下する傾向にあります。特に大都市部において計画規模を上回る豪雨による内水氾濫が頻発し、人口や都市機能の集積した地区において、毎年甚大な浸水被害が発生しています。また、高齢化社会の本格化に伴い、災害時要援護者の増加も懸念されています。被害の最小化を目的とした安全性の向上を図る必要があります。

雨水を排除するだけでなく、貯留浸透及び再利用も含めて水・物質循環の健全化という観点から、「雨に強いまちづくり」を目指しつつ、減殺対策を含めて浸水被害の最小化を図ることが重要であります。

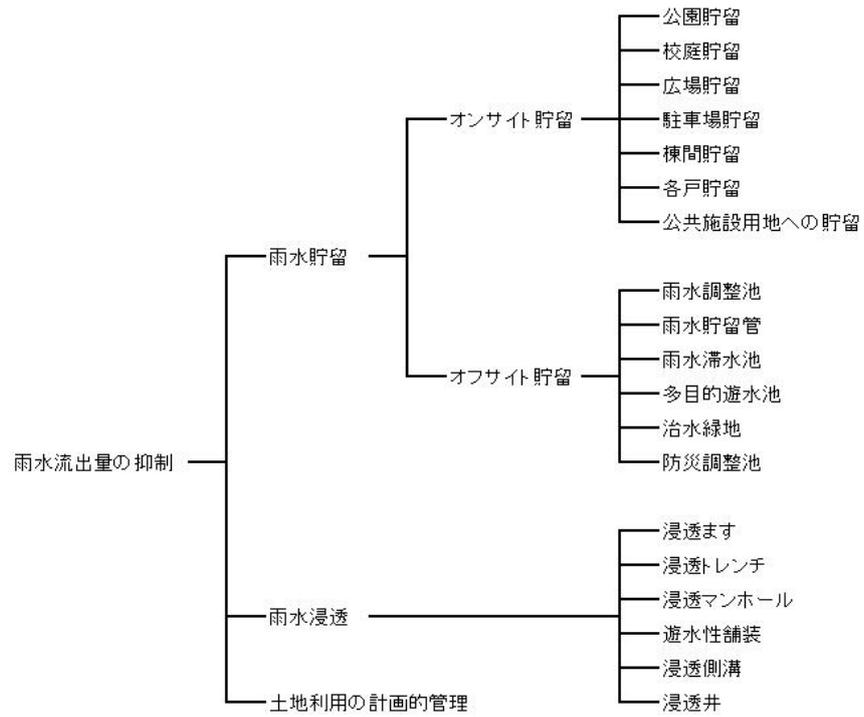
業務実施のメリットや効果

- ① 水量・水質の両面から良好な水環境の創出
- ② 豪雨による浸水被害の最小化
- ③ 水・物質循環系の健全化による良好な水環境の創出
- ④ 活力ある地域づくりへの貢献

OECは、地下式も含めた雨水調整池、雨水貯留施設の計画・設計、雨水貯留浸透施設の計画・設計を行い、総合的な治水対策を提案します。また、既存施設の改築による貯留容量の増大などへの対応も行います。



(出典:「都市整備における雨水循環下水道システム計画指針(案) 都市基盤整備公団、下水道新技術推進機構(2000/3))



雨水流出抑制対策の分類

(出典: 下水道施設計画・設計指針と解説 前編 —2009年版— 社団法人 日本下水道協会)